



All Japan Road Race Championship 2022  
**RACE REPORT**

SDG Honda Racing / SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.



■SDG Media Infomation

2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第2戦

2022 NGK スパークプラグ 鈴鹿 2&4 レース

三重県・鈴鹿サーキット (1周 =5.821km)

4月23日(土):公式予選・JSB1000 レース 1

4月24日(日):JSB1000 レース 2

観客動員数:16,000人(2日間合計)

**JSB1000クラス #5 名越 哲平**

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE

レース 1 予選: 欠場 決勝: 欠場

レース 2 予選: 欠場 決勝: 欠場

**JSB1000クラス #28 榎戸 育寛**

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE

レース 1 予選 8 番手 (タイム: 2分 07 秒 784) 決勝: 13 位

レース 2 予選 9 番手 (タイム: 2分 08 秒 095) 決勝: 4 位

1 Motegi

2 **Suzuka**

3 Autopolis

4 Sugo

5 Tsukuba

★ Suzuka 8H

6 Autopolis

7 Okayama

8 Suzuka



**ウエットコンディションで快走した榎戸選手**



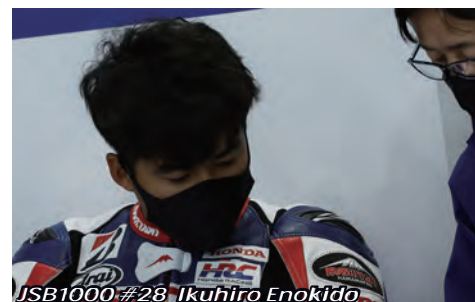
JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

全日本ロードレース選手権は、シリーズ第2戦を三重県・鈴鹿サーキットで迎えた。今回は、4輪のスーパーフォーミュラと併催となる鈴鹿2&4レース。2輪は、JSB1000クラスのみとなり、Honda Racingの名越哲平とSDG Motor Sports RT HARC-PRO.の榎戸育寛がエントリーしていた。



JSB1000 #5 Teppei Nagoe

前週にテスト走行があり、第2戦で復帰を目指していたSDG Honda Racingの名越哲平は、ここでJSB1000マシンをライディングしてみるが、まだレーシングスピードに耐えられる身体ではなく、残念ながら2戦連続の欠場を決断することになった。一方、榎戸は、このテストで2022年型Honda CBR1000RR-Rをシェイクダウン。マシンのベースセットから作業を進めていった。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

開幕戦に続き今回も木曜日の特別スポーツ走行からレースウィークがスタート。初日は3本走行があり、A組での出走となった榎戸は、真っ先にコースインしてマシンのセットアップを進めた。2本目途中から雨が降り始めるが、なるべく多く周回を重ねデータを取ることに集中。ウエットコンディションとなった3本目も積極的に周回を重ねチームと共にディスカッションを進めた。



金曜日は、晴れとなったが、前日の雨のため朝一番の走行は、路面が乾かず、1回目のセッションは計測3周に止まっていたが、2回目のセッションで2分07秒566までタイムアップ。総合でも3番手とストック仕様ながら健闘していた。

その勢いそのまま公式予選では、さらにタイムを縮めたいところだったが、うまくクリアラップを取ることができない。何とか2分07秒台に入れるものの、金曜のタイムには届かず悔しい結果となったが、レース1が8番手、レース2が9番手と、それぞれサードロウにつけた。

14周で争われたレース1。榎戸は、まずまずのスタートを切り8番手で1コーナーをクリア。オープニングラップを9番手で終えると、その後も順位を落としてしまう。苦戦は予想していたが、最後まであきらめずに戦い抜き13位でチェッカーフラッグを受けた。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

日曜日は雨予報だったが、それよりも早く降り出し、朝のウォームアップ走行からウエットコンディションとなった。榎戸は、ここで6番手タイムをマークし存在感を見せ、自信をもってレース2に挑んだ。

ウエット宣言が出たため周回数も2周減算されレース2は14周で争われた。スタートで一つでも前に出ようと気合いを入れる榎戸だったが、いきなり想定外の出来事が起こる。シグナルがブラックアウトすると、目の前のグリッドの岡本選手がリアをスライドさせ真横を向いてしまう。榎戸は、これを避けようとピットウォール側に逃げるが、あわや接触という危険な場面だった。このアクシデントで大きく遅れてしまった榎戸だったが、オープニングラップから激しい追い上げを開始する。



1周目を11番手で終わると2周目に9番手に、3周目には8番手までポジションアップ。さらに前を追っていく。すると6周目のデグナーカーブ立ち上がりで転倒があり、セーフティカーが導入されることになる。これで前との差が詰まった榎戸は、リスタートでのジャンプアップを狙う。そしてセーフティカーがピットインし、再びレーシングスピードに戻ると、1台、また1台と前を走るライダーをパスしていく。最終ラップにも1台をかわし4位でゴール。表彰台には届かなかったが、ストック仕様でHonda勢最上位を記録する健闘を見せた。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

■榎戸育寛コメント

「レース2は、スタート直後のアクシデントで大きく順位を落としましたが、追いつきのレースができました。まだまだ課題が残っていますが、チームのおかげで、シェイクダウンしたばかりのマシンとは思えないほど高い戦闘力を発揮してくれました。次戦のオートボリスも精一杯走りますので、引き続き応援よろしくお願いします」



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido